

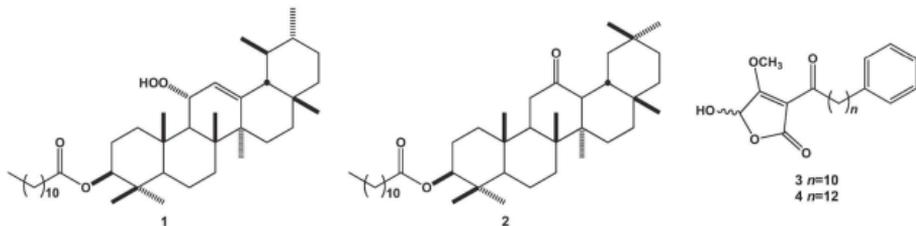
# 28M-am06S

沖縄産植物シシアクチ (*Ardisia quinquegona*) 葉部の成分探索

○浅海 慎太郎<sup>1</sup>, 杉本 幸子<sup>1</sup>, 松浪 勝義<sup>1</sup>, 大塚 英昭<sup>1,2</sup>, 武田 美雄<sup>1,2</sup> (<sup>1</sup>広島大  
院医歯薬保, <sup>2</sup>安田女大薬)

【目的】ヤブコウジ科 (Myrsinaceae) に属するシシアクチ (*Ardisia quinquegona*) は、主に東南アジアや沖縄諸島に広く分布する常緑低木である。これまでに当研究室では、本植物より新規ベンゾキノン誘導体 8 種などを単離、報告している。<sup>1,2)</sup> 引き続き、未利用植物資源探索の一環として、本植物葉部の成分探索を行った。

【方法・結果】シシアクチの乾燥葉 (1.59 kg) を MeOH で抽出し、そのエキスを常法に従って、n-hexane, EtOAc と順次分配した。得られた Hex 可溶画分 (32.1 g)、EtOAc 可溶画分 (65.1 g) をそれぞれ silica gel, ODS, HPLC の各種カラムクロマトグラフィーを用いて分離・精製を行った。その結果、2 種の新規トリテルペン (**1**, **2**)、2 種の tetronic acid 誘導体 (**3**, **4**) を単離し、1 次元および 2 次元 NMR を中心としたスペクトル解析により、それらの構造を下図に示すように決定した。



1) 日本生薬学会第 58 回年会(東京)、要旨集 p. 129 (2011)

2) 日本薬学会第 132 回年会(札幌)、29E10-pm07S (2012)